

しごとサポート!

第36号



※障害のある方が安心して働き続けることができるように、仕事に関する相談や支援を行っている文京区の支援機関です。



本社にて撮影(左手から、津留氏、鹿毛氏、有山氏)

レバレッジズ株式会社

「長く継続した雇用のため」 ～体験実習の意義とは～

【会社概要】

レバレッジズ株式会社

本社所在地:東京都渋谷区二丁目24-12

渋谷スクランブルスクエア24F/25F

<https://worklear.jp/company/>

(ワークリア事業部HP)

“障がいの有無関係なく
活躍できるように”

「長く継続した雇用」のためには、企業と求職者のミスマッチを防ぐことが重要になります。そのため、昨今では体験実習を取り入れる企業も少なくありません。本号では、多数の体験実習受入れ実績があり、自社での安定雇用に繋がっているレバレッジズ株式会社の津留氏、鹿毛氏、有山氏にお話をお伺いしました。

◇レバレッジズ株式会社の障がい者雇用

レバレッジズ株式会社は渋谷に本社を置くITや医療・ヘルスケア領域を中心に事業展開している企業です。同社では、120名以上の障害者が同社内の120以上もある事務業務を担い、活躍をしています。「障がいの有無関係なく、戦力として活躍してもらえること」を前提に雇用をしています。

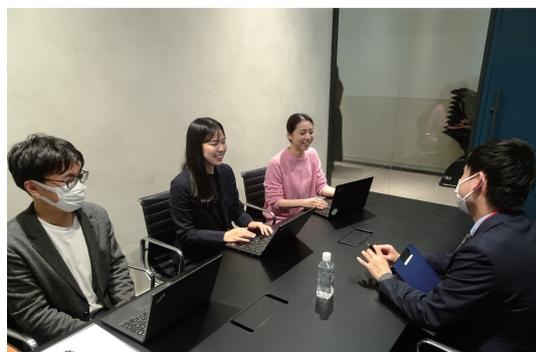
◇採用のための体験実習

同社が障害者雇用を始めたのは、2017年。体験実習(インターン)の受入れは、1年後の2018年から開始。面接だけでは判断ができないというところから始まり、実習の様子から判断して合否を出すために始めたと言います。そこから現在に至るまで、体験実習の受入れを行っていますが、2024年だけでも、約600名の受入れを行ったと言います。「支援機関とも付き合いをしていく中で実習が採用に繋がること気づき始め、事業部を拡大していく中で、支援機関では見つけられない課題や強みを感じてもらえたら」という思いで実習の受入れをしていると話してくださいました。

2024年に採用をした社員もそのほぼ全員が実習経験者であると言います。実際に2週間の実習を体験し入社を決めたという有山氏。実習では、現在も取り組んでいる業務を行い、実践的にできたことがよかったと語ります。「ブランクが3年ある中で、どれだけ働けるか確かめられたこと」「スタ

ッフの対応が素晴らしく安心して業務出来ることを経験できたこと」がよかったと話してくださいました。また実習を経て入社したことで「環境に慣れるのは苦手だが、入社後はすぐに慣れた」「入社後のギャップはなかった」と話されている姿が印象的でした。

また実習時の様子を知っているため、「インターンの時はこういうことができていたよね、みたいな事実に基づいたフィードバックをすることが出来るので、双方にとって安心感が全然違うと思います」と企業側にとっても、求職者ご本人にとってもメリットになるということを津留氏は話してくださいました。



渋谷本社にてインタビューさせていただきました。

◇CSRとしての体験実習

従来、体験実習は雇用を視野に入れた形で取り入れる企業が多い中で、同社は応募を前提とせず、就労経験を積むという目的でも受入れをしています。「失敗の経験をしている人も多い中で、応募する前提で判断されるプレッシャーから持てる力を発揮できない。社会復帰のハードルが下がることや、きちんとした経験が出来るものを、応募

する人だけに限定しなくてもいい」という考えから、応募を前提とせずとも参加できる現在の形となっています。そのような実習の形態のため、支援機関より「自分の課題を認識してほしい」と実習をお願いされることもあるといい、昨年の約600名の受入れに繋がっています。



渋谷支店の様子



秋葉原支店の様子

◆体験実習において大切なことは

月換算でも毎月約20名前後の方の受入れをしている会社ですが、受入れにあたって大切にしていることについて、鹿毛氏は「安心して実習に参加していただける環境づくりをすごく意識しています。」と話されます。そのために具体的に「質問窓口の一本化」「面談機会の設定」を挙げられました。同社の実習では、参加にあたり事前に面談を行い、普段訓練していることや体調安定のために気を付けていること、ストレスに感じること、配慮事項などを伺います。そして実習初日にインターンガイダンスを行い、実習が始まります。実習中は前日

の作業に対するフィードバックを毎日行い、毎週水曜日には中間振り返りを実施し、不安や悩みを解消する時間を設けています。実習最終日には、実習期間の様子を踏まえたフィードバックと振り返りを実施しています。

最終的なフィードバックは、勤怠管理・コミュニケーション・業務ルールの3点の評価項目からなる評価表を元に行われます。その際、「good&moreをセットで伝えるようにしています。成功体験を積んで欲しいので、moreだけにならないようにお伝えしています」と体験実習が少しでも良い経験となって欲しいという思いを話してくださいました。

評価表の内容についても常にブラッシュアップを図っているといい、参加者にアンケートを取り、その内容を定期的に担当者間で話し合う場を設けているとのこと。津留氏は、「フィードバックをひたすら求めにくい社風がある」と話されており、実際に参加した方からもフィードバックを求めにくいことに、より安心する環境を作っていくという同社の考えが表れていると感じます。

◆同社の今後について

今後の障がい者雇用の取組みについて、津留氏は「当事者がレバレッジや社会にもっともっと貢献してける雇用のあり方を、私たちが率先して率いて描いて推進していきたいです。」と話され、鹿毛氏は、「戦力として働ける人たちですし、戦力となるようなヒントを実習で出し続けていきたい。今もまだ完璧とは思っていないので、フィードバックを求めながらお手本とされる体制を作れたらと思っていますね」と語ってくれました。有山氏は、「社内において将来的には実習前面談やインターン業務に携わっていきたい」と目標を教えてくださいました。

Information

『文京区中小企業等 障害者職業体験受入れ助成事業』

文京区では障害者雇用を考えている区内中小企業事業主向けに、文京区独自の職業体験の助成事業を実施しております。
1日2時間以上4時間未満・・・2000円
1日4時間以上・・・4000円

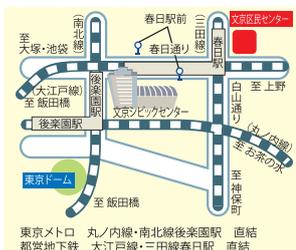
また、採用や採用後の定着支援、短時間雇用についてなど、雇用や定着での様々なご相談を受け付けております。
お気軽にご相談ください。

編集後記

今回、「長く安定した雇用」をテーマに、体験実習を取り上げ取材をさせていただきました。ご本人にとっても企業にとっても入社後のイメージを掴む、大切なプロセスであるとともに、採用のみならず、社会で活躍できる力を身につけるための手段であり、その機会提供をすることをとても大切にしていると教えていただきました。

実習に参加される方が安心して参加できる環境を常に追い求め、改善を繰り返す姿勢があるからこそ、結果として働く皆様の働きやすさに繋がっているのだと感じました。また、今後も障害者雇用を積極的に引っ張っていきたいという思いを教えてください、支援者として身が引き締まる思いです。

今後も多様な取組みをご紹介しますよう、様々な場所を取材していきたいと思っております。（文責：本田）



就労支援のお問い合わせ

TEL 03-5805-1600 FAX 03-5805-1601 E-mail: daihyo@bunkyo-shuroushien.jp

文京区民センター1階 文京区障害者就労支援センター
〒113-0033 文京区本郷4-15-14

文京区障害者就労支援センター通信「しごとサポート」 第36号(令和7年3月24日発行)

発行■文京区障害者就労支援センター 毎回、障害のある人の「働く」を発信していきます。次号もご期待ください。